

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年2月21日

事業所名: きりしま子ども発達支援センター わかば

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>			
	2 職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			定められた職種、スタッフ数は配置してあります。但し、多様な発達支援のニーズに対応するためには、特に専門職の配置が不足していると感じています。このため、令和2年度もスタッフの採用を行います。(「きりしま子ども発達支援センター 実樹」児童発達支援で3名)
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<input type="radio"/>			
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>			様々な業務について問題点の把握、対応策と目標の検討、モニタリングをできるだけ多くの職員が参加して行えるように努めています。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		今後検討して参ります。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>			
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>		個人差はあると思う。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		重度の子ども等難しい場合がある。年齢が高い場合も同じ。	各専門職が標準化された評価法を用いて評価しています。また、今後も必要な評価法の学習を行い、適宜取り入れて参ります。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>			
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>			個別療育、小集団療育共に各スタッフが子どもの目的に応じてよく考慮して工夫して立てて行っていると感じています。考えられることは、各自の独自の工夫、センス、経験等で差は出てくるものではないかと思われれます。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	<input type="radio"/>			
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		概ね行っている。連携がはぶける場合もある。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>			集団での発達支援では毎回行っています。個別で行われる発達支援の場合、毎回行っていない。必要に応じて会議を開催したり、担当者以外のスタッフがオブザーバーとして発達支援に参加し、担当者との意見を交換したりしています。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>			
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>			
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	<input type="radio"/>			花や野菜の栽培等、様々な活動は行っていると思いますが、一年を通ずると行っている頻度は低く対象者が偏っていると思います。全対象者への支援は検討の必要があります。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		左記の内容というよりは、発達支援の場面や内容について個別支援計画、電話連絡、学校訪問などで、学校との情報共有を行っています。学校での様子も同様の方法で行っています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		普段から必要に応じて、電話、メール、文書などで連絡が取れるようにしています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		年1回利用者の通っている保育所等との連携会議を行っています。 療育での支援目標や内容については、個別支援計画書を作成した際に保育所等へも提供できるよう保護者へお渡しするよう努めています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	ケースが少ない。該当するケースにあつたことがない。	学校卒業に伴い、放課後デイサービス等を利用されていた利用者様が次の事業所等へ移行する際、個別支援計画書や情報提供書等の提供をしていました。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		「鹿児島県子ども総合療育センター」での研修、情報交換を年に1回実施しています。 その他、専門医や医療機関との連携は嘱託医、講義、研修、報告書、電話、メールといった形で行っています。「きりしま子ども発達支援センター実樹」は児童発達支援センターとなっていますので、令和2年度は比較的経験の浅い(児童)指導員などに向けた研修を企画する予定です。 また、「障がい児等療育等支援事業」の委託を鹿児島県より受けており、主に教育、福祉関係の施設、事業所の支援も行っています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	子ども達との交流の機会は少なかったが、今後も機会があつたらイベントなどで交流の機会を作っても良いと思います。今年度より北小の校区の子ども110番に登録する事はできました。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		子ども専門部会に参加しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		モニタリング時期や個別支援をお返す時は話す機会はとるかと思いますが、子どもの療育での様子次第では、保護者と話す時間が少ない担当者はいられるかもしれません。また、話はしはしていても共通理解とまではいかないケースもあるかもしれません。信頼感を持ちながら、保護者のニーズに日々寄り添うことは大いに必要です。各担当者の自覚、責任、コミュニケーション能力も大きな課題であると考えます。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		本年度、保護者向けの学習会を実施、来年度も継続予定。ペアレント・トレーニングについては、今後検討が必要。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		療育が始まる前の評価後に子どもさんの支援内容を説明させていただいています。 新規利用初回時に、契約書と重要事項説明書の中で施設長、または児童発達管理責任者が説明させていただいています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	努力しているが、適切かどうかわからない。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		家族会は開催され、たくさんの家族の参加がありました。いぶきは日中・その他は夜の食事会での開催でしたがそれぞれ課題はあるようです。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があつた場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情に対しては、相談苦情事故対応マニュアルに基づき、対応しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		はなはなの広報誌「はなはな便り」を年4回発行し、行事予定のご案内や活動の報告等を行っています。各事業所に掲示する他、HPにも載せています。災害時の避難訓練や連絡体制等は、事業所内に掲示し、定期的にHPIに載せています。保護者の皆様からの評価と自己評価を年一回実施し、その結果をまとめて職員間で周知しHPIに掲載しています。
	35	個人情報に十分注意している	○	十分ではないところもある。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		昨年度は10周年記念行事が開催されたが、地域の方々への周知が少なかった。また、地域のお祭りやイベントにも参加していけたら良いと思います。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			施設独自のマニュアルを作成し、掲示板に提示しています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			月に一回は避難訓練を行い、一年を通して火災、震災、風水害、防犯を想定して行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		対象児なし。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		対象児なし。	お母様の情報から食物アレルギーがあるかを確認しています。今年度はアレルギーのある利用者はいませんでした。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			